

学校と家庭・地域をつなぐ

道徳だより こころざし

令和元年11月1日
第2号
志布志市立通山小学校

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

学校だよりなどでもお知らせしていますが、11月1日（金）～7（木）の一週間は地域が育む「かごしまの教育」県民週間です。11月6日（水）の2校時（9：45～10：30）には、全学級において道徳科の授業を公開します。ぜひ御参観いただき、子どもたちの学びの様子を御覧ください。

各学級の授業予定

| 学級名 | 内容項目（どんな道徳性について学ぶか） | 教材名（どんな読み物等をとおして学ぶか） |
|-----|---------------------|----------------------|
| 1年 | 節度、節制 | かぼちゃのつる |
| 2年 | 公正、公平、社会正義 | 三びきは 友だち |
| 3年 | 公正、公平、社会正義 | ぼくのボールだ |
| 4年 | 友情、信頼 | 絵はがきと切手 |
| 5年 | よりよく生きる喜び | かぜのでんわ |
| 6年 | 勤労、公共の精神 | 自分にできること |

1年生の授業より

<こんな学習をしました>

「学校へいくとき」という教材を使って、「国際理解、国際親善」についての学習をしました。

<ねらい>

外国の人と言葉を交わし気持ちを通じることのうれしさを感じ取り、外国の人々と親しくしようとする心情を育てる。



教材の内容

はじめ、「ぼく」は言葉が通じないソニアとどう接しているのか戸惑っていたため、ソニアの目の前を黙ったまま通り過ぎた。しかし、母のアドバイスを受けて、次の日、「ぼく」は、思い切って「おはよう」と声をかけた。ソニアのお母さんがうれしそうに、「ボンジニア。」（ブラジル語）と答えてくれたことで、「ぼく」は意思の疎通ができたような気持ちになる。その次の日の朝、ソニアと「ぼく」は同時にそれぞれの国の言葉であいさつを交わしたことで、言葉や文化は違うけれど、親しくなりたいという2人の思いが通じ合い、お互い顔を見合わせて笑ったという話である。

あいさつができたときどうだったかな。

- 最初は小さくて聞こえなかったけど、その次の日、言ってみたらいい気持ちだった。
- ぼくの国の言葉で「おはよう」と、いってくれてうれしいな。
- ぼくもソニアさんも、笑っていてよかったなあ。
- ぼくが「ボンジニア」といったとき、ソニアさんは「おはよう」と反対に言うとは思わなかった。
- ともだちを笑顔にすることができてよかった。



<子どもの振り返りより>

- いろいろな国の「おはよう」を言ってみたくなった。
- たまに学校に行く時、通り過ぎることがあったので、今度からは必ず挨拶をしたい。
- これまであいさつについて深く考えてなかったけど、友だちが「おはよう」っていったら、自分も元気な挨拶をしたいと思う。
- 「おはよう」と、あいさつをしたら、ここが良い気持ちになると思う。
- 違う国の人に会っても挨拶をしようと思う。

2年生の授業より



教材の内容

縄跳びを続けて跳べない「わたし」。ずっと練習しているのに、なかなか跳べない。でも、跳びたい。そこで、上手に跳べる友達の跳び方を観察して、うまくなるコツに気づき、家に帰っても練習を続けていると、とうとう20回跳べるようになったという話である。

なかなかできない→あきらめてしまったよ

- てつぼうのさかあがり。
- とびばこの練習。
- なわとびの難しい技。

なかなかできない→あきらめなかったよ

- 算数のひき算の繰り下がり。
- サッカーのリフティング。
- そろばんの練習。
- なわとびの交差跳び。



<こんな学習をしました>

「なわとび」という教材を使って、やりたい、できるようになりたい。それがうまくいかないときに、どんなことが大切か、また、そのことから逃げ出さずに、根気強く努力するためにどんな気持ちが必要か学習しました。

<ねらい>

うまくいなくても何度も練習して跳べるようになった「わたし」の達成感を通して、困難から逃げ出さず、根気強く努力して、目標に向かって最後までやり抜こうとする心情を育てる。

<子どもの振り返りより>

これからは どんなときに どうしたい？

- できないことがあったら、あきらめなくて練習する。
- 一輪車も練習したらできるようになったので、これからはできないことがあっても練習を続けたいと思います。
- できなくても泣かないで、がんばりたいです。
- できなくても、何度も練習すればできるようになることがあるんだと思いました。
- 今できていることも、あきらめずに練習を続けて、もっとできるようになりたい。

言葉の力

苦手なものって、誰にでもありますよね。鉄棒・縄跳びなどは、一人で練習するより、友だちと一緒にやるほうが楽しくて、いつのまにかできるようになっていることがあります。でも、ときには、もうやめたいな、どうせできないというあきらめの気持ちを抱いてしまいます。そんな時こそ、友だちや家族、先生など身近な人達からの「やる気のでる言葉」が大切です。「あと少しやってみよう。」「昨日より上手だよ。」「こうするといいかもよ。」そんなプラス思考になる言葉が増えてくると、やる気も高まります。言葉の力、活用したいですね。